

[抄録様式]

<p>公益財団法人 8020 推進財団</p> <p>令和元年度 歯科保健活動助成交付事業報告書抄録</p>
<p>1. 事業名：職域成人における歯科口腔保健の普及啓発事業</p> <p style="text-align: center;">～無関心層への予防歯科情報発信～</p>
<p>2. 申請者名：公益財団法人ライオン歯科衛生研究所</p>
<p>3. 実施組織：公益財団法人ライオン歯科衛生研究所</p>
<p>4. 事業の概要：</p> <p>働き盛りの20～60代で口腔ケアに関心を高く持ち、予防歯科を実践することは、歯を失うリスクの低減につながり、口腔健康の保持・増進、生活の質の向上につながると考えられる。</p> <p>そこで昨年度は、(公社)日本歯科医師会が作成した生活歯援プログラムの質問紙と当財団が作成する情報冊子の配布を行ない、参加者の歯科保健知識の向上と健康行動への変容を評価。結果として歯科保健行動や知識の向上が確認できた。しかし、行動変容できた集団は歯科に対する関心が高い層と考えられ、情報を遮断する、情報を得ても行動しないなど歯科に関心のない無関心層への対応が課題として浮き彫りとなった。</p> <p>昨年度の課題に対応するため、今回の情報冊子は無関心層へのアプローチを強化するため、行動経済学や表現の専門家2名の監修を得て刷新することとした。刷新の際には、対象者の選定や典型的な対象像の選定など行った。また、ナッジの活用では、プライミング効果、権威効果、損失回避などの理論を用いた。さらに、無関心層でも読みやすいよう、全編漫画での情報冊子を作成した。</p> <p>今年度においては、新型コロナウイルスの影響で作業が滞り冊子の評価まで至らなかったため、冊子の受容性の評価と課題の抽出、改善を行っていく。</p> <p>また、引き続き、無関心層への保健指導充実を図るため、手法の蓄積が必要である。</p>
<p>5. 事業の内容：</p> <p>(公社)日本歯科医師会の生活歯援プログラムを活用し質問紙票の実施と保健指導として当財団で作成した情報冊子を利用した間接保健指導プランにおいて、無関心層へのアプローチを強化した情報冊子に刷新した。無関心層へのアプローチ方法としては、外部専門家と共同して行動経済学(ナッジ理論)や表現方法に留意し読みやすい全編漫画仕様で作成した。</p>
<p>6. 事業後の評価(今後の課題)：</p> <p>現在まで行動経済学や表現に注視して保健指導を実施することが不足しており、歯科衛生士の教育や議論にかなりの時間が必要となった。今後も保健指導充実を図るため、引き続き、ナッジの活用や表現、伝え方に留意した保健指導手法の蓄積を行う必要がある。また、新型コロナウイルスの影響で作業が滞り評価まで至らなかった。今後、冊子の受容性の評価を行うと共に課題を抽出して改善を図っていく。</p>